



特集 その後どのように過ごしていますか？

## 家族だんらんの「あったかい家」

特集 その後どのように過ごしていますか？  
家族だんらの「あったかい家」

東京都小平市 | 木造一戸建て | 1邸(ご夫婦+お子様2人)



1  
ストーリー

緩やかに続く大谷石のアプローチを抜けた先に、爽やかな青色の外観の住まいがありました。今回ご紹介するのはこちらに住みはじめてから2年半ほど経つ、4人家族の1様の暮らし。もともとはマンションにお住まいでしたが、相羽建設のモデルハウスを訪れたことが自然素材の家に住みたいと感じるキッカケになったのだそうです。「いろいろなイベントに参加しながら様々な土地を見に行きました。梅雨時や寒い時期に宿泊体験も何度かさせて頂いたりして。でもなかなか具体的にならなくて……そんなとき、この土地を紹介してもらったんです」。

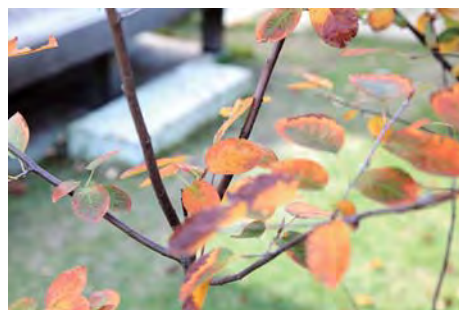


## 2

### 家族が集まるだんらんスペース

土地が決まるとさっそくその場所にあったプランを考えます。ちょうど隣が緑っぱいの敷地だったことから、1階はその景色を楽しめるように、雪見障子のある"堀座卓"のダイニングスペースが設けられていました。「いわゆる一般的なテーブルではない形がいいなあと思っていたんです。こうすれば足も入れられるし、畳スペースもあってゴロンと昼寝もできて、すごく気に入っています」と笑顔でお話し下さったご主人。今では家族が自然と集まる居心地の良い場所になっているようです。さらに座卓の下にはOMソーラーの吹き出し口もついているので、冬は太陽の熱で足元からじんわり暖まります。「冬はOMソーラーが本当にあっただかくて、基本的にはずっと裸足で過ごしてます。家の中がまんべんなくあたたかいので、外が寒いことを忘れて上着を着ないで出かけそうになることもありました(笑)」。

家の中もあたたかく、家族だんらの様子に心もあたたまるような、そんな1様の暮らし。



▲ 手前に収納機能もついた堀座卓



### ▼ ワクワクする場所

1 様の住まいは階段を中心に回遊性のある間取になっています。階段横の通路にワークスペースをつくったり、長い廊下がウォークインクローゼットになっていたり、ワクワクするような工夫がたくさん!限られたスペースが最大限に楽しく活用されていました。

1,2,3…趣味のカメラ棚があるご主人の書斎スペース。4…2階子ども部屋。将来は間仕切りをして2部屋に。5…階段横は家族共有のワークスペース。



### 3 暮らしを楽しむ



◀ 家の中と外の薪棚をあわせて一年分ストックされた薪



### ▲ 炎のある暮らし

家を建てる前、薪ストーブイベントに参加したことをキッカケに炎のある暮らしに興味を持ったという1様。「冬になると、毎日朝と夜だけ火をつけています。余熱で一日あったかいですよ」とストーブライフを楽しまれていました。また、自宅の薪ストーブでつくる焼き芋やピザも格別の味です。

### 取材後記

とても朗らかなで家族で、楽しく貴重な時間を過ごさせてくださいました。そしてびっくりしたのが、1様がainohaのバックナンバーを全部とっておいて下さっていたということ!他にも「ナチュラルズム」というainohaができる前の会報誌も大事に保管されていて、家づくりの参考に下さっていたそうです。そんな1様の丁寧さが住まいに反映されているのだなぁと感動した一日でした。(記:広報 吉川)



設計・施工:相羽建設

撮影取材:伊藤・吉川 ainohaバックナンバーはこちら→<http://aibaeco.co.jp/photo/ainoha/ainohabackno/>





特集 その後どのように暮らしていますか？

## 家族をやさしく包み込む家

特集 その後どのように暮らしていますか？

# 家族をやさしく包み込む家

東京都小金井市 | Hugハウス(木造一戸建て) | O邸(ご夫婦+お子様)



## 1 ストーリー

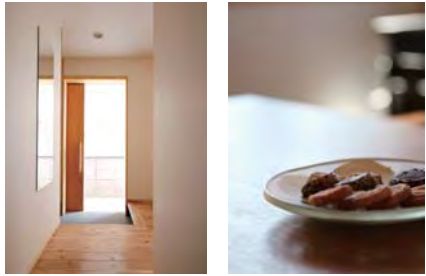
緑に囲まれた遊歩道沿いに建つ、3つの切妻屋根が重なった可愛らしい外観の家「Hugハウス」。こちらに暮らしはじめてから1年半ほど経つ、3人家族のO様のお住まいを訪ねました。

以前は、小金井市の駅前の小さなマンションにご夫婦2人で暮らしていましたが、子どもが生まれたことをきっかけに家づくりを考えはじめたそうです。「ある日、新聞を読んでいたら広告欄の家の写真に目とまって " 同じ市内にこんな素敵なおうちをつくっている人がいたんだ！ " って衝撃を受けたのをおぼえています。そのあと、設計者の方と直接会ってお話させていただきました」。それが、建築家の島田貴史さんとのO様の最初の出会いだったといいます。「家のデザインはもちろん、島田さん自身がとても素敵なお方でした。お人柄の良さが設計にも現れているような……そんな魅力を感じました」。



## 2

### 家族と過ごす時間を楽しむ



家の中に飾られている  
ドイツやスイスなどの  
ヨーロッパの雑貨や木  
のおもちゃ。

可愛い木の  
おもちゃがお出迎え♪



外の景色が眺められる2階リビング

〇様の暮らしの中心となっている2階リビング。家づくりのプランを考える際に「まわりの環境や日当たりを考えてリビングは2階へ」という島田さんの提案から実現されました。夏は窓を開けると風が流れて涼しく過ごせ、冬は日当たりが良いので暖かく、一年を通して居心地の良い場

所です。寒い朝にはペレットストーブのゆらめく炎を眺めながら、ゆったりとした時間を過ごすこともあります。また、バルコニーからの眺めもとてもよく、こちらも家族のお気に入りのスペース。「バルコニーで水遊びができるように壁に蛇口をつけてもらったんですよ」と〇様。実際に

夏にはプールや線香花火を楽しんだり、七輪でサンマを焼いたりすることもあるのだそう。「普段は共働きなので家にいる時間が少ないですが、休日は朝起きて子どもと遊んだり、家でくつろいだり……。新しい暮らしがはじまってから、家で過ごす時間がとても増えましたよ」。

みんなでゆっくり楽しい時間を過ごす〇様ご家族



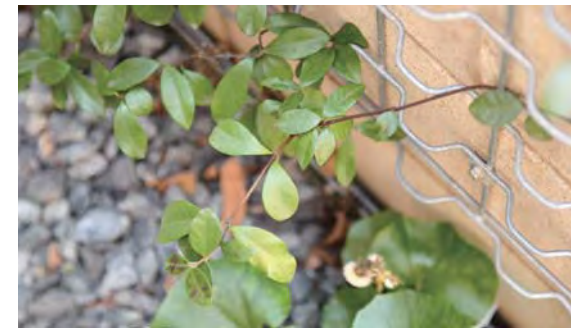
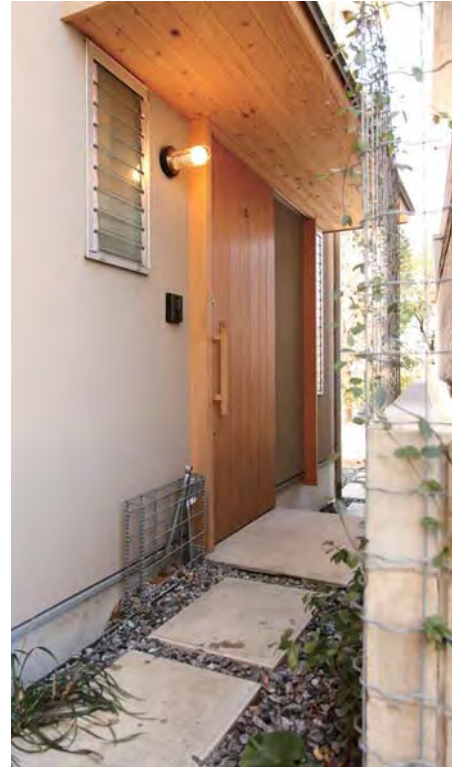
1.籠り感のあるスタディスペース / 2.ペレットストーブ燃料 / 3.回遊性のあるキッチン / 4.ペレットストーブの前で本を読む親子 / 5.秘密基地のような小屋裏スペース

### 3 居心地の良い場所

Hugハウスは延床面積19坪ほどのコンパクトな家です。2階リビングを中心とした一つの空間の中に、スタディスペース、和室、キッチン……と様々な居場所があります。それぞれの部屋がつながっていて、どこにいても家族の気配を感じつつ、ほどよく落ち着いた籠り感。なんだかほっとするような住まいです。

### 4 玄関へと続く 緑のアプローチ

趣のある玄関へと続く素敵なアプローチ。金網でつくったカゴに植物を植えたり、傘立てや蛇口を取り付けたり、面白いアイデアがたくさんちりばめられていました。これから年月を重ね、家族とともにゆっくりと植栽の成長を見守れることも、日々の楽しみの一つとなりそうです。



造園: 5×緑(GOBAIMIDORI)  
<http://www.5baimidori.com/index.html>

#### 取材後記

2階リビングの居心地が良く、「家にいる時間が増えました」というO様の言葉にとっても納得しました! 普段忙しい中でも、ほっと一息できる場所があるだけで気持ちも落ち着きます。あらためて、家って暮らしの大事な一部なのだあとしみじみ感じました。(記: 広報 吉川)



設計: しまだ設計室(島田貴史) ホームページはこちら→<http://kazunoki.com/>  
撮影取材: 伊藤・吉川 ainoha/バックナンバーはこちら→<http://aibaeco.co.jp/photo/ainoha/ainohabackno/>



特集 その後どのように暮らしていますか？

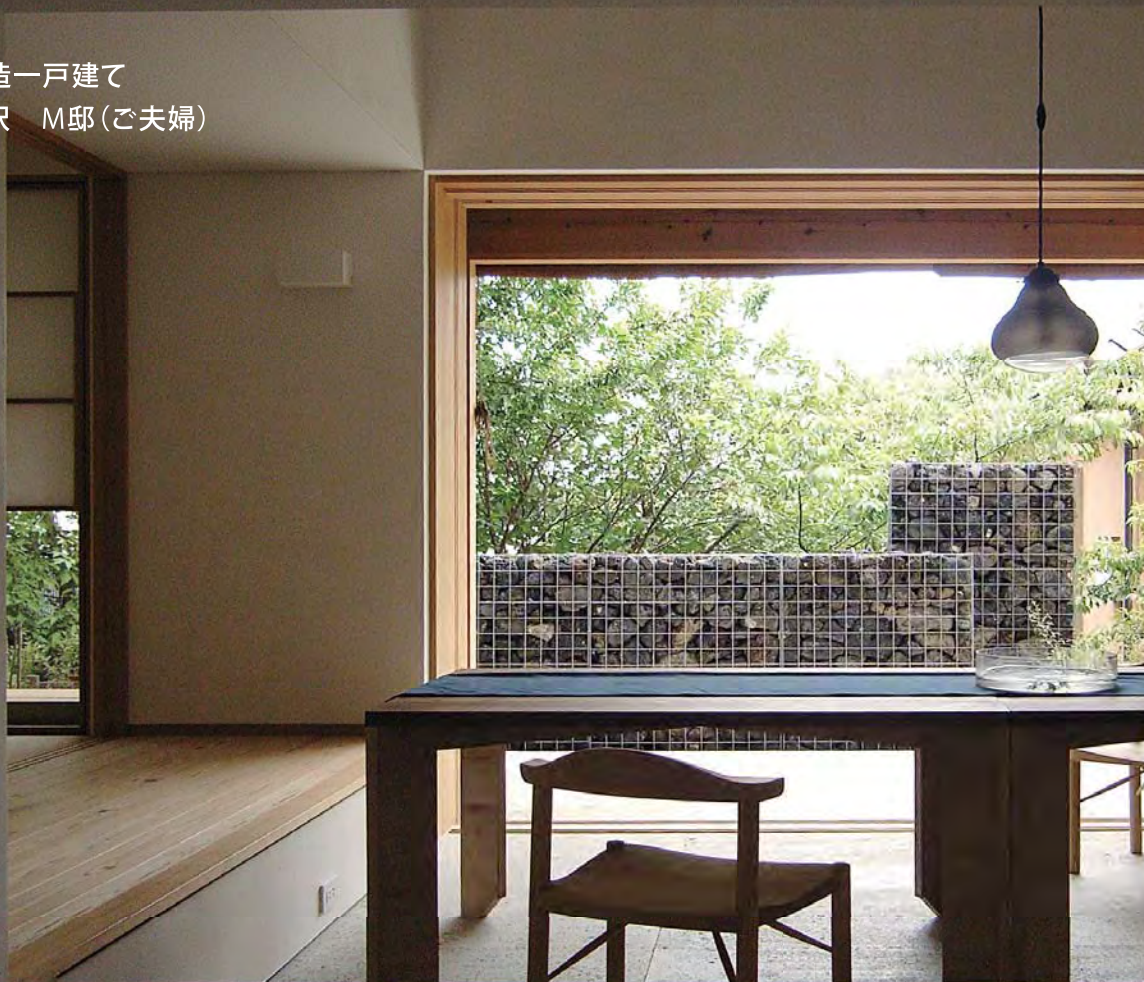
## おしどり夫婦の家づくり



特集 その後どのように暮らしていますか？

## おしどり夫婦の家づくり

埼玉県所沢市 | 木造一戸建て  
ソーラータウン西所沢 M邸(ご夫婦)



### 1 ストーリー

ソーラータウン西所沢のまちに暮らすM様の家を訪ねました。住みはじめてから2年が経ち、ご近所さんとの交流を楽しみながら、日々を過ごされているM様ご夫婦。ここに住むことを決めたキッカケの一つが土地の魅力だったといいます。

「土地探しでは100ヶ所くらい見てまわりましたよ。その中で夫婦ともに良い!と思った場所が、このソーラータウン西所沢だったんです」。周りに自然が適度にあって、敷地の中にも緑が多い家がいっぱいある。ゆるやかな傾斜から眺める周りの家の様子もとても綺麗で、そんなまち全体のバランスがとても良かったと語るM様。「まだ土地購入が決まる前に、ソーラータウン西所沢のイベント『にしとこ祭』に参加したことがあったんですよ。気づけば半日もタウンの方とお酒を酌み交わっていて、最後はタウンの方が、私たちが当時住んでいた自宅まで送って下さったこともありました。そんな住人のみなさんのおおらかな感じや、人柄の良さにもホっとしたのを憶えています」。

## 2

### ご近所さんと自然との暮らし

「このまちに暮らしはじめてから圧倒的に変わったのは、週末の時間がとても豊かになったことです。これまで都会で暮らしていましたが、騒がしくてプライバシーもなく、心も体も休まらず、週末は昼近くまで寝ていました。今では7時頃には起きて、散歩して、近所のコーヒー屋さんにて夫婦二人でモーニングに行くのも楽しみになってます」。朝は鳥の鳴き声で目が覚め、昼間は近所の子もたちが楽しそうに遊ぶ声に元気をもらい、夏の夜は鈴虫の声を聞きながら眠る……そんな素敵な日々を送っているというM様。普段の何気ない生活の中に小さな幸せを感じます。

また、家を建てる前からイベントなどでよく顔を合わせていたというソーラータウンの住人の方たちとは、住んでから、より一層関係が活発になったそうです。「最初にご近所付合いの経験がなかったので戸惑いもあったけれど、BBQやマラソン大会に誘ってもらって、みんなで一緒に何かをする面白さを久しぶりに思い出して、すごく楽しいです。あとは、AIBAスタッフの新さんも同じまちに住んでいるので、もし何かあってもすぐに相談できるのも安心なんですよ」。

住む家の性能はもちろん、家のまわりの自然環境やあたたかいご近所さんたちとのつながりがあることで、毎日の暮らしが有難いものへと変わっていきます。

タウンの方が集った冬のイベント  
「薪カキ会」▶



### 3

## 暮らしを設計する



### 人が集まる通庭

ご夫婦で建築のお仕事をされているM様。実はこの家もご自身で設計されたお住まいです。玄関からダイニング、そして庭まで続く大谷石の土間は「通庭」と名づけられ、「タウンの方がふらっと立ち寄って一緒に食事をつくったり食べたりできる場にしたい」——そんなM様の想いからつくられました。タウンの人がたまたま集ったのがきっかけで、薪ストーブを楽しみながら牡蠣を食べる「薪カキ会」が冬の恒例イベントになりつつあるそうです。「いずれは、タウンの全世帯の方がいらっしやると嬉しいです」とM様。



### 季節ごとの暮らし方を楽しむ

薪ストーブとソファのある小さな土間や、花火の見えるインナーバルコニーなど、M様の家には心地よく過ごせる居場所がたくさんあります。「季節や天気によってくつろいだり、寝る場所を自由にかえたりしています。その時々によって居心地の良い場所を探す猫のように(笑)過ごしています」とM様。その言葉の通り、夏は風通しの良いインナーバルコニーやテラスがあったり、冬の寒い日には、あたたかい陽の光の中で日向ぼっこできる縁側があったり……。季節ごとの部屋の特徴を楽しみながら暮らせる魅力的なお住まいです。



左上：薪ストーブのある小さな土間。右上：溶岩を積んだ「打水堀」。石の間から水が流れ出ます。左下：書齋とつながる書庫。右下：インナーバルコニーでくつろぐ奥様。夏は花火を見ながらビールを飲んでいます。



### 取材後記

定期点検の日に、M邸で「薪カキ会」に参加させていただきました。家の建築に関わったAIBAスタッフや大工さんたちも集まり、素敵な家で奥様の美味しい手料理をいただき……と、なんとも楽しく貴重な時間を過ごさせていただきました。その席でM様は「ゆくゆくは、書齋で夫婦の設計事務所をオープンしたい」とのこと。楽しみです！（記：広報 吉川）



設計：M様 / 監修：田中敏博建築設計事務所 / 撮影：寺島由里佳 / 取材：伊藤・吉川  
「ソーラータウン西所沢」の暮らしにご興味がある方は「あいばの不動産」をご覧ください→ <http://aiba-fudousan.jp/>

ainoha

— アイバノコトノハ —



特集 その後どのように暮らしていますか？

## 身近に火のある暮らし

take free  
ご自由にお持ち帰りください

2016 \* December vol.60

特集 その後どのように暮らしていますか？

# 身近に火のある暮らし

東京都三鷹市 | ご両親+ご夫婦+お子様2人 | 木造二世帯住宅



## 1

### ストーリー

建て替え、家に住みはじめて8年が経った、S様ご家族の暮らしを訪ねました。

同居するご主人のご両親が、この地に移り住んできたのは50年ほど前のこと。当時家の周りには建物が何もなく、バス停へ向けて川沿いを歩く家族の姿を、ずっと手を振って見送ることができたそうです。S様はここで生まれ育ち、家族と一緒に永くこの家に住み続けてきました。時間の流れと共に周辺の街の風景が変化していき、この家も築40年ほどが経とうとしていました。そんな中、ご両親やご主人にとって思い出深いこの場所で、引き続き家族と一緒に心地よく過ごせるように——と、「二世帯住宅」への建て替え計画がはじまったのです。



S様ご家族(子世帯)が暮らす2階リビング・ダイニング。  
新ストーブ横の小上がりになった畳コーナーやご主人の書斎など落ち着ける空間になっています。

## 2

### 家づくりの出会い

家づくり検討中に雑誌でOMソーラーを知り「面白い!」と感じたというS様。すぐに近くで施工してくれる工務店を探したところ、相羽建設と出会ったそうです。「元の家も大工さんが建ててくれた家だったので、自然と地元の工務店で建てることを視野に入れていました。距離も近いのでメンテナンスも安心だなあと感じて」とお話しされる奥様。そして「最初に営業部の照美さんが対応してくれました。家づくりの悩みや言いづらいことも全部オープンに話せて、受け入れてくれたことにとても安心しました」との嬉しいお話も。そんな奥様と照美さんは8年経った今でも気さくな仲です。

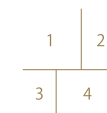


### 3 身近に火のある暮らし

一生に一度の家づくり。最初はモデルハウスを見学したり、ご夫婦で資料を持ち寄って話し合うも、お互いに納得のいく暮らしのイメージがなかなか見つからなかったというS様。そんな中、目に止まったのが、建築家の松原正明さんが設計した住まいの“薪ストーブのある暮らし”の写真でした。炎のゆらめきやゆっくりと流れる時間……一目見てご夫婦で「これだ!」と意見が一致したそうです。「主人はキャンプ好きだったり、私は実家に火鉢があったり、お互いに共通していたのは『火が身近にある暮らし』だったんです。当時は共働きで、家ではゆったり過ごしたいと思っていたので、別荘のような雰囲気の家も設計されている松原さんをお願いすることにしました」と当時を振り返る奥様。

二世帯住宅をベースにしたプランは、2階リビングに薪ストーブを設置。また、生活時間がそれぞれ異なる家族のために、キッチンやお風呂場などの水回りは二つにしつつ、「家族が毎朝顔を合わせられるように」と玄関は一つになりました。

二世帯がそれぞれのペースで生活ができ、いつでもお互いの顔を合わせられる。みんながほど良い距離間で過ごせるS様の暮らしは、毎日が家族の笑顔で満ちています。



- 1,3…ゆったりとした2階リビングの空間
- 2…薪ストーブで暖まる柴犬のカイ君
- 4…1階リビングでくつろぐご両親





## 4

### 住まいの見どころ紹介



#### ▲ 薪ストーブの温もり

家の中でも「炎のゆらぎ」をポーッと眺めていたくて北欧製の薪ストーブ、愛称は「みいくいアヒルの子」をいれました。やさしい温もりで家族はいつもリビングで過ごしているようです。薪ストーブのご縁で奥様は※「東京ストーブ」さんで温もりの輪を広げています。「時代の中で変わっていくものもあれば、火のように昔から変わらないものもあって、それらを上手に暮らしに取り入れていけたらいいなあって」と笑顔の奥様。

※「東京ストーブ」さんについてはP.16のお店紹介にて掲載中。

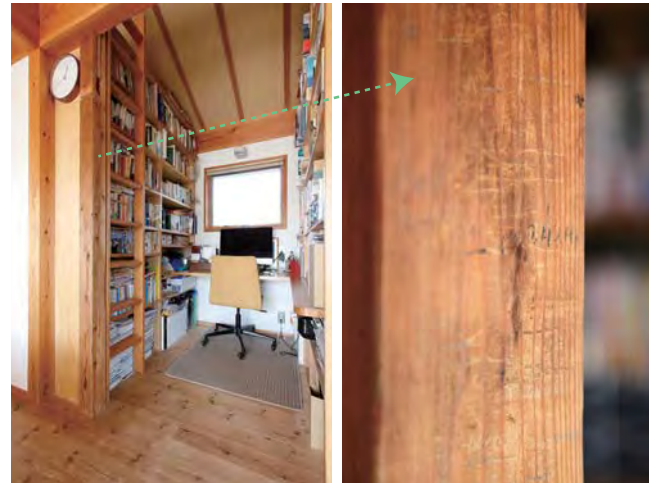
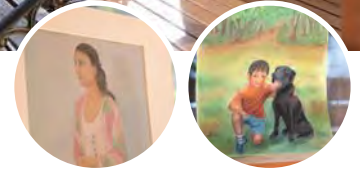


#### 暮らしを楽しむ ▶

ずっと外にいたくなるような、緑に囲まれた1階のウッドデッキ。つい最近、木部をお父様が全部再塗装をしました!とても綺麗な仕上がりです。また、お母様も絵画教室に通っていて、家の中にはたくさんの素敵な作品が飾られていました。とても元気でキラキラしている活動的なお二人。



お母様がカルチャースクールで制作した作品の数々→



#### ◀ 思い出をつなぐ

2階リビングとつながる家族共有の書斎スペース。天井まである本棚にはS様の本がズラリと並んでいます。書斎入口には旧家の柱を化粧柱として使用。よく見るとS様の子ども時代の身長を刻んだ跡も……!

#### 取材後記

S様の家には、書斎の柱をはじめ、玄関にある開き戸の取手や仏壇の木部など、旧家で使っていた部材が家のあちこちに取り入れられていました。昔の思い出が新しく建てた家にも残るって、とても素敵です。古い柱と新しい柱が隣同士で一緒に年月を重ねていく様子もまた家の魅力になっていくのだなぁと感じました。(記:広報 吉川)



松原正明建築設計室 →<http://m-matsubara.s2.weblife.me/index.html>  
取材:伊藤・照美・吉川 取材後記はコチラ → <http://ameblo.jp/ainohablog/>



S様の旧家